

平成 28 年 2 月 9 日 西宮市立瓦木中学校の校区変更に関する説明会での主な質疑応答まとめ

西宮市教育委員会  
学校改革課

Q1. 瓦木中学校の今後の 5 年間の予測だけでなく、過去からの状況を教えて欲しい。

A1. 20 日の説明会において、過去の瓦木中学校の学級数・生徒数をお示しします。

Q2. 高木北小学校の新設を決定した時に瓦木中学校の対応を検討できなかったのか。

A2. 当時から瓦木中学校の生徒数増を懸念するご意見はいただいていたいました。

市教育委員会としては当時、以下の 3 点の理由で生徒数の推移を見守る判断をしました。それ以後も、校地拡大や校舎増改築についても検討してきましたが、校区変更以外の手法では対応が難しいという結論に至ったところです。

①開発や転入によって増えた児童生徒を受け止める期間が、小学校では 6 年間だが、中学校は 3 年間であること。また、瓦木中学校区内の小学 6 年生が、一定数私立中学校に進学する傾向にあり、瓦木中学校にすべての 6 年生が進学するわけではないこと。

②公立高校の学区拡大に伴い、瓦木中学校区内の小学校から瓦木中学校への進学状況を見守る必要があったこと。

③当時、文部科学省で 40 人学級から 35 人学級への検討がなされており、もしそれが実施された場合は、確実に教室不足となるが、検討する中身が全く違うものになってしまうこともあり、その動向を注視する必要があったこと。

Q3. 校区変更についてもう少し早くに伝えられなかったのか。

A3. これまでの校区変更においては、公表から 1 年の猶予もなく変更されるということがありました。この度の校区変更については、少しでもその期間を長く設けたいということで、1 年以上の期間を設けさせていただきました。この期間が十分なものであったかどうかについては、一つの検証課題として考えさせていただきたいと思います。

Q4. 開発抑制の地区指定を緩和した場合どうなるのか。

A4. 現在、お示しした推計の案は既に地区指定による制限がかかっている状態で校区変更を行ったものです。その推計と上限の推計（瓦木中学校区におけるマンション開発が行われる可能性のある土地を全てピックアップし、開発が最大限行われた場合）との間で、実際の生徒数は推移すると見ています。上限の推計においても、校区変更を行うことにより仮設校舎で対応可能な教室数の範囲で収まり、それ以上にはならないと判断しています。

Q5. 今回の校区変更は、いつ誰がどのようにして判断したのか

A5. 教育委員会として、判断したのは平成 27 年夏です。それ以降、学校や地域の代表者の方々に対して、校区変更案について説明をしてきました。その際に、地域全体の視点で見たときに配慮すべき点を伺ってまいりましたが、校区変更案自体を変更してほしいというお話はありませんでした。

Q6. 今回の議論は教育委員会だけでされていたことか

A6. 校区変更については規則改正が必要となり、規則改正は教育委員会で行うものではありませんが、土地の開発状況や都市計画、道路の問題や地域コミュニティの状況など、市長部局のさまざまな部署と相談をしながら進めてきました。

Q7. 甲武中学校の運動場や教室の状況はどうか

A7. 運動場や教室の状況については 20 日の説明会でお示しします。現状の推計においては仮設教室の設置の必要がないと判断しています。

Q8. 規則改正のスケジュールは 4 月となっているが、延期されることはないのか

A8. スケジュール案とさせていただいたとおり、現時点で規則改正の時期が確定しているものではありません。20 日の説明会を行ったうえで、決定したいと考えています。

Q9. 3 町はそのまま瓦木中学校を改築することで対応できないか

A9. 増改築で教室数を増やして、これ以上の学級数になっていくことで、学校運営ができるのかという議論をしていかないといけないと思います。現状ではこれ以上の学級数にすることは難しいと考えています。

Q10. 経過措置が短すぎるのではないか

A10. 小学校と中学校で違うという事情は確かにあります。

その他意見

- ・ 3 町以外の案を示して欲しい。
- ・ 目の前にある中学校に行けないのは、おかしい。
- ・ 甲武中学校になるなら、それでも仕方ないが、樋ノ口小学校区より増加している地域の生徒を移してはどうか。
- ・ 甲武中学校の運動場面積などの教育環境はどうか。
- ・ 甲武中学校に行くことへのモチベーションが高まるような工夫を考えて欲しい。
- ・ 子供達の気持ちを一番に考えて欲しい。